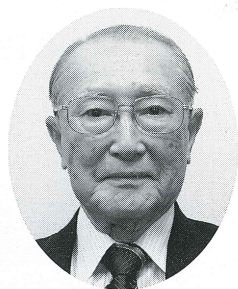


## 年頭の御挨拶



辰巳会会長 鈴木治雄

新年明けましておめでとうございます。

平成年号も二十年を経まして新しい年となりました。昭和から平成と約八十年の間には戦争と平和、そして世界の何処かで今も紛争が絶えない年月が過ぎました。

世界が平和であれば人類皆で地球の安全を守って行けるのですが、昨今の如く世界の何処かで平和が保たれず紛争が起きていく地域があり、如何ともしがたい思いになります。世界の平和を守るのは人間であり、地球を破壊するようなことになれば、我々人間が自らを滅ぼしてしまうことになるのかもしれない。自然は何億年の経過で大変動を起し、新しい地球が、また新しい世界が出来るのではないかと考えられます。今を生きている者が自然の力に逆らうことをするならば、いつ生存がおびやかされるのかと思うと恐ろしいことです。

取り越し苦労かも知れませんが、人類はこのように繰り返しの歴史を過ぎてきたのではないのでしょうか。辰巳会の皆様の思いもそうであるように、住みよい

地球、平和な世界を築く精神を持ち続けるならば、未来は愉しい人生を享受できるのではないのでしょうか。

昨年は、世界規模の金融恐慌の嵐が舞う一年となりましたが、昭和初期の恐慌の波を被った鈴木商店と重なるところがあるように、鈴木商店を題材とした書物が著されたこともあり、鈴木商店OBを起源とした当辰巳会への問い合わせ、感心を寄せられたことは喜ばしいことでした。

辰巳会は四十八年の歴史になりました。発足当時の直接に鈴木商店に関係した会員は全くと言えるほど故人になられ、その二世、三世そして現在に継がれている関係企業の皆様によって支えられています。辰巳会は親睦を旨として、明治・大正時代の日本経済に彗星のごとく現れた鈴木商店の存在を示す会として継続していきます。

会員も高齢の方が多くなりましたが、会の催に元気で出席いただけるよう健康に留意されますことを願って、新年のご挨拶といたします。

## 全国大会報告

平成二十年五月二十七日(火)／於：北野クラブ「ソラ」二階「ミラージュビル」(神戸市)

平成二十年の全国大会は、一昨年と同じく二度目の会場となる神戸北野クラブで開催されました。当会場の前回は雨模様でありましたが、この度は雲ひとつ無い快晴のもと正午より開会されました。

安東幹事長の開会の辞では、全国大会が五十一回にあたり会場皆様の健康の話があり「ここにお集まりの皆さんは今言われている後期高齢者でなく貴い高貴高齢者の皆さんであります」と言われ、先ずは和やかな笑いが出ました。そのあと、大会のご案内をしましてところ多くのご出席がありましたことに感謝の意を表されました。

鈴木会長のご挨拶では、辰巳会の会合が長きに亘り続くことは皆さんのご精進のおかげと健康であられてご参加いただいていることにお礼の言葉がありました。また、会長は九十歳になられ、自らの健康とこれまでの人生について、大正七年の焼討ち当時は幼児であり覚えていないが、次に鈴木商店の破綻のあと昭和四年の小学五年生の時にこれまでの居宅が塩屋に変わることを告げられた。昭和十六年には上海に住まわれていたお姉さんを迎えに

行かれ、戦争が勃発して足止めにあい攻撃を身近に感じたと話し、そして本大会、例会の企画をされるため会合されている幹事皆さんへの労いのお話でした。

次に松下幹事の会務報告より、五月十二日に祥龍寺において物故者法要が執り行われました。今年物故者になられた方が大谷一二さん(元東洋紡績会長、ご夫人は鈴木会長妹さん)と金子伝太郎さん(直吉翁お孫さん)がおられ、過去帳に一二〇七名が記載されたことが報告されました。

懇親の宴に進み、鈴木会長と同じ最長老になります須藤欽吾さんのご発声で乾杯があり、料理が入って会食が始まりました。宴も進む中、最初のスピーチは高畑宗一さんのご紹介によります矢倉慎吾さんでした。矢倉さんのお父さんは鈴木商店、日商岩井と勤務された林三様です。ご自身が帝人に勤務されていた時代から高畑宗一さんとご親交があり、辰巳会への参加を勧められたこと等の自己紹介をされました。次にスピーチされた大槻幹郎さんは、「たつみ」誌前七十一号で鈴木よね刀自没七十

年「資料特集」において、よね刀自の直筆和歌が難解であったのを解説され、現在活動されているご自身のこと、同伴されました娘さんについてのお話しでした。続いて、初めての出席になる安井裕二郎さんは、金子直吉翁が須磨一の谷に居住していた頃に、祖父からお父さんの頃に近所であったと聞いて、鈴木商店について興味を持たれた話し、安井さんは新しい日本の歴史認識についての「識る力」―神戸本町通で読む七十章―を著作するなど、出版・企画で活躍されています。またご自身も神戸における鈴木商店の歴史認識をどの様な形に現すかのお考えを披露されました。毎回、鈴木商店に関し興味あるスピーチをされる大塚さんは、平成二十年四月に母校である一橋大学開放講座で「鈴木商店の歴史 金子直吉から速水優まで」と題して講演されたこと、農林省に居られた方から初めて鈴木薄荷について聞かされたこと、また神戸大学で昨年春に開催された鈴木商店の資料展に関連して同大学に鈴木商店の研究者を辰巳会で育てたらどうかの考えを披露されました。宴も終わりに近づき、再登壇の安東幹事長からは老化をしない人生を送るには食物の良し悪しが影響しているようです。

楽しく会食し歓談の時も終わりの時刻となり、柳田幹事の閉会の辞で次回のご出席を望みお開きとなりました。当会場は、行きはつらい、帰りはよいよいの坂道を駅へ向かいました。



### 平成二十年度 全国大会式次第

平成二十年五月二十七日(火曜日)  
北野クラブ「ソラ」二階「ミラージュビラ」

司会進行役 金野 事務局

一、開会の辞

安東 幹事長

一、会長挨拶

鈴木 会長

一、会務報告

松下 幹事

宴

一、乾杯

テーブルスピーチ

一、閉会の辞

楠瀬 本部幹事

以上

### 平成二十年度 全国大会御出席者名簿

(敬称略)

平成二十年五月二十七日(火曜日) 正午より  
北野クラブ「ソラ」二階「ミラージュビラ」

金子ソメエ	金子孝蔵	落合 滋	大塚 融	大谷 淳子	大槻 倫子	大槻 幹郎	王 鞍延子	今村 三郎	池田 泰雄	安東 浄
松 下 重 男	藤 野 欽 司	坂 東 み どり	東 條 佳 子	月 岡 定 康	高 畑 美 紀	鈴 木 孝 子	鈴 木 治 雄	須 藤 欽 吾	楠 瀬 正 明	金 子 峻
以上 二十九名		中 谷 尚 美	金 野 和 夫	(事務局)		柳 田 辰 巳	山 崎 元 嗣	安 井 裕 二 郎	矢 倉 慎 吾	宮 永 悠 紀 雄